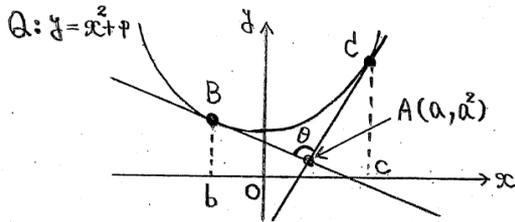


文学部、教育学部、法学部、経済学部、情報学部 (人間・社会情報学科)

1



(1) $y = x^2 + p$ のとき, $y' = 2x$ であるから,
点 $(t, t^2 + p)$ における Q の接線の方程式は,
 $y = 2t(x - t) + t^2 + p$
 $= 2tx - t^2 + p.$

これが点 $A(a, a^2)$ を通る条件は,
 $a^2 = 2ta - t^2 + p$
 $t^2 - 2at + a^2 - p = 0.$

$p > 0$ より,
 $t = a \pm \sqrt{p}.$

$b < c$ より,
 $b = a - \sqrt{p}, c = a + \sqrt{p}.$... (答)

(2) $\theta = \frac{\pi}{2}$ のとき,
 $2b \cdot 2c = -1$
 $bc = -\frac{1}{4}.$

(1) の結果より,
 $a^2 - p = -\frac{1}{4}$
 $p = a^2 + \frac{1}{4}.$... (答)

(3) 点 B における Q の接線, 点 C における
 Q の接線と x 軸の正方向とのなす角を
それぞれ β, γ ($0 < \beta - \gamma < \pi$) とおくと,

$$\begin{aligned} \tan \beta &= 2b, \quad \tan \gamma = 2c. \\ \theta &= \beta - \gamma \text{ であるから, 加法定理より,} \\ \tan \theta &= \tan(\beta - \gamma) \\ &= \frac{\tan \beta - \tan \gamma}{1 + \tan \beta \tan \gamma} \\ &= \frac{2(b - c)}{1 + 4bc} \\ &= \frac{-4\sqrt{p}}{1 + 4(a^2 - p)} \quad \text{(1) より} \end{aligned}$$

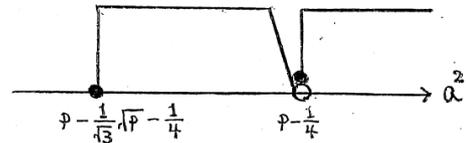
$$= \frac{4\sqrt{p}}{4p - 4a^2 - 1} \dots \text{(答)}$$

(4) $\frac{\pi}{3} \leq \theta < \pi$ のとき,
 $\frac{\pi}{3} \leq \theta < \frac{\pi}{2}$ または $\theta = \frac{\pi}{2}$ または $\frac{\pi}{2} < \theta < \pi$
すなわち

$\tan \theta \geq \sqrt{3}$ または $\theta = \frac{\pi}{2}$ または $\tan \theta < 0$
(あり), (2), (3) より,
 $\begin{cases} 4p - 4a^2 - 1 > 0, \\ 4\sqrt{p} \geq \sqrt{3}(4p - 4a^2 - 1) \end{cases}$ または $p = a^2 + \frac{1}{4}$
または $4p - 4a^2 - 1 < 0$

$$\Leftrightarrow \begin{cases} a^2 < p - \frac{1}{4}, \\ a^2 \geq p - \frac{1}{\sqrt{3}}\sqrt{p} - \frac{1}{4} \end{cases} \text{ または } a^2 \geq p - \frac{1}{4}$$

$$\Leftrightarrow a^2 \geq p - \frac{1}{\sqrt{3}}\sqrt{p} - \frac{1}{4} \dots \text{(*)}$$



(*) がすべての実数 a に対して成り立つ
ための, p の範囲は,

$$\begin{aligned} p - \frac{1}{\sqrt{3}}\sqrt{p} - \frac{1}{4} &\leq 0 \\ \left(\sqrt{p} + \frac{1}{2\sqrt{3}}\right)\left(\sqrt{p} - \frac{\sqrt{3}}{2}\right) &\leq 0 \\ 0 < \sqrt{p} &\leq \frac{\sqrt{3}}{2} \end{aligned}$$

より,

$$0 < p \leq \frac{3}{4} \dots \text{(答)}$$

文学部、教育学部、法学部、経済学部、情報学部 (人間・社会情報学科)

2

120 = 2³ · 3 · 5 であるから、積が120である3つの整数の組で、どの2つの整数も最大公約数が1であるものは

「1, 1, 2³ · 3 · 5」, 「1, 2³ · 3 · 5」, 「1, 3, 2³ · 5」, 「1, 5, 2³ · 3」, 「2³ · 3 · 5」, すなわち、

(ア) 1, 1, 120 (イ) 1, 8, 15
 (ウ) 1, 3, 40 (エ) 1, 5, 24
 (オ) 8, 3, 5 である。

(1) (※) かつ $abc = 120$ をみたす a, b, c の3つの整数は、(ア)~(オ)のいずれかの組だから、 $a \leq b \leq c$ を考慮して、
 $(a, b, c) = (1, 1, 120), (1, 8, 15), (1, 3, 40), (1, 5, 24), (3, 5, 8)$ (答)

(2) (※) かつ $abc = 120$ をみたす組 (a, b, c) のうち、3つの整数が(ア)のものは3通り、3つの整数が(イ), (ウ), (エ), (オ)のものはそれぞれ6通りずつあるから、求める個数は $3 + 6 \times 4 = 27$ (個). ... (答)

(3) N 以下の素数の個数は m より、 $a_1, a_2, a_3, \dots, a_m$ を正の整数、 $p_1, p_2, p_3, \dots, p_m$ を、どの2つも互いに異なる素数として、 $N!$ は

$$N! = p_1^{a_1} \cdot p_2^{a_2} \cdot p_3^{a_3} \cdots p_m^{a_m}$$

と素因数分解でき、 $q_k = p_k^{a_k}$ ($k=1, 2, 3, \dots, m$) とすると、

$$N! = q_1 \cdot q_2 \cdot q_3 \cdots q_m$$

と表せる。

条件(※)より、 $abc = N!$ をみたす

a, b, c は、どの2つも2以上の共通の約数をもたないから、 a, b, c は「 $1, q_1, q_2, \dots, q_m$ のいずれか」または、「 $q_1, q_2, q_3, \dots, q_m$ のうちの2つ以上の積」である。

よって、 $q_1, q_2, q_3, \dots, q_m$ の m 個の数を3つのグループ A, B, C に分け、分けた数の積をそれぞれ a, b, c (ただし、数が1も分けられなかったグループは、数の積を1とする) とすれば、できる (a, b, c) の組の総数が、求める個数である。

したがって

$$3^m \text{ (個)}. \quad \dots \text{ (答)}$$

文学部、教育学部、法学部、経済学部、情報学部 (人間・社会情報学科)

3

条件(*)のもとで、点Aが直線 $y=x$ 上にある状態をE、点Aが直線 $y=x+1$ 上 または 直線 $y=x-1$ 上にある状態をFとおく。

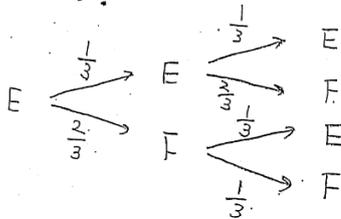
(1) $n=1$ のとき、該当する

推移は右のようになる。

よって、

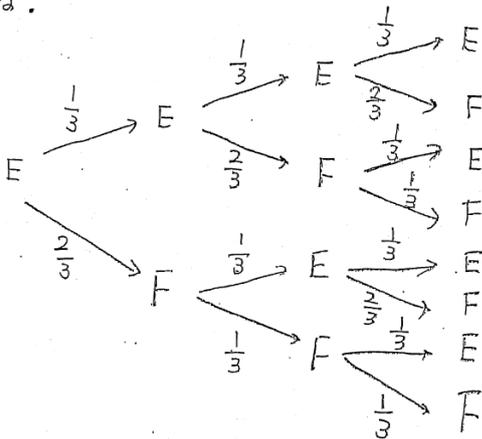
$$P_1 = \frac{1}{3} + \frac{2}{3} = 1. \dots (\text{答})$$

$n=2$ のとき、該当する推移は下のようになる。



よって、 $P_2 = \frac{1}{3} \cdot \frac{1}{3} + \frac{1}{3} \cdot \frac{2}{3} + \frac{2}{3} \cdot \frac{1}{3} + \frac{2}{3} \cdot \frac{2}{3} = \frac{7}{9} \dots (\text{答})$

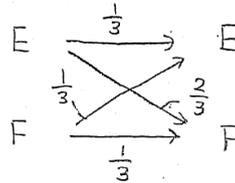
$n=3$ のとき、該当する推移は下のようになる。



よって、

$$P_3 = \frac{1}{3} \cdot \frac{1}{3} \cdot \frac{1}{3} + \frac{1}{3} \cdot \frac{1}{3} \cdot \frac{2}{3} + \frac{1}{3} \cdot \frac{2}{3} \cdot \frac{1}{3} + \frac{1}{3} \cdot \frac{2}{3} \cdot \frac{2}{3} + \frac{2}{3} \cdot \frac{1}{3} \cdot \frac{1}{3} + \frac{2}{3} \cdot \frac{1}{3} \cdot \frac{2}{3} + \frac{2}{3} \cdot \frac{2}{3} \cdot \frac{1}{3} + \frac{2}{3} \cdot \frac{2}{3} \cdot \frac{2}{3} = \frac{17}{27} \dots (\text{答})$$

(2) 時刻 n 時刻 $n+1$



上の推移図より、 $a_{n+1} = \frac{1}{3} a_n + \frac{2}{3} b_n \dots (\text{答})$

$$b_{n+1} = \frac{2}{3} a_n + \frac{1}{3} b_n \dots (\text{答})$$

(3) $P_{n+2} = a_{n+2} + b_{n+2}$

$$= (\frac{1}{3} a_{n+1} + \frac{2}{3} b_{n+1}) + (\frac{2}{3} a_{n+1} + \frac{1}{3} b_{n+1})$$

$$= a_{n+1} + \frac{2}{3} b_{n+1} = \frac{2}{3} (a_{n+1} + b_{n+1}) + \frac{1}{3} a_{n+1}$$

$$= \frac{2}{3} (a_{n+1} + b_{n+1}) + \frac{1}{9} (a_n + b_n)$$

$$= \frac{2}{3} P_{n+1} + \frac{1}{9} P_n \dots (\text{答})$$

(4) 以上のすべての整数 n に対し、

$$P_n \leq \alpha^{n-1} \dots (\#)$$

が成り立つことを数学的帰納法を用いて示す。

(I) $n=1$ のとき、 $\alpha^0 - P_1 = 1 - 1 \geq 0$

よって、 $P_1 \leq \alpha^0$ となり、(＃)は成り立つ。

(II) $n=2$ のとき、

$$\alpha^1 - P_2 = \frac{3 + \sqrt{2}}{9} - \frac{7}{9} = \frac{\sqrt{18} - \sqrt{16}}{9} \geq 0$$

よって、 $P_2 \leq \alpha^1$ となり、(＃)は成り立つ。

(III) $n=k, k+1$ ($k=1, 2, 3, \dots$) のとき

(＃)が成り立つと仮定する。(3)より、

$$P_{k+2} = \frac{2}{3} P_{k+1} + \frac{1}{9} P_k \leq \frac{2}{3} \alpha^k + \frac{1}{9} \alpha^{k-1} = \alpha^{k-1} \cdot \frac{6\alpha + 1}{9}$$

$$\alpha = \frac{1 + \sqrt{2}}{3} \text{ であるから}$$

$$P_{k+2} \leq \left(\frac{1 + \sqrt{2}}{3}\right)^{k-1} \cdot \frac{3 + \sqrt{2}}{9} = \left(\frac{1 + \sqrt{2}}{3}\right)^{k-1} \cdot \left(\frac{1 + \sqrt{2}}{3}\right)^2 = \alpha^{k+1}$$

となり、 $n=k+2$ のときも(＃)は成り立つ。

(I),(II),(III)より、以上のすべての整数 n に対し、(＃)は成り立つ。(証明終り)